pdは離調周波数対１チャネルの帯域幅比［％］、BWchは１チャネルの帯域幅［MHz］とする。ａ及びｂは、次のとおりとする。

ア　１チャネルの帯域幅が20MHz以下の場合

pd＝50％以上100％未満のとき、ａ＝11dBc、ｂ＝0.3

pd＝100％以上250％以下のとき、ａ＝10dBc、ｂ＝0.32

イ　１チャネルの帯域幅が20MHzを超える場合

ａ＝11dBc、ｂ＝0.4

３　空中線電力

一ワット以下であること。ただし、任意に設定された値以上の受信機入力電圧が加えられた場合には、〇・一ワット以下であること。

４　送信空中線

その絶対利得が二〇デシベル以上の利得を有する指向性空中線であること。

５　隣接チャネルの帯域における空中線電力に対する減衰量

中心周波数から一チャネルの帯域幅離れた周波数及び一チャネルの帯域幅の二倍離れた周波数を中心として（±）〇・四五×一チャネルの帯域幅の帯域内に輻射される空中線入力端における空中線電力に対する減衰量が次により求められる値以上となること。

ア　中心周波数から１チャネルの帯域幅離れた周波数を中心として（±）0.45×１チャネルの帯域幅の場合は、27＋８log（BWch／60）[dBc]

BWchは１チャネルの帯域幅［MHz］とする。

イ　中心周波数から１チャネルの帯域幅の２倍離れた周波数を中心として（±）0.45×１チャネルの帯域幅の場合は、43［dBc］

６　信号伝送速度

毎秒六メガビット以上であること。

７　送信空中線の主輻射の方向からの離角に対する利得

送信空中線の主輻射の方向からの離角に対する利得Ga（θ）は、以下の条件を満たすものであること。この場合において、θ＝０°の時のGa（θ）の値をGamaxとする。

ア　Gamaxが20〔dBi〕を超え40.3〔dBi〕以下の場合

Ga（θ）≦Gamax－2.2×10^{-3}（$10^{((Gamax-8.4)/20)}\times\theta$）^{2}〔dBi〕　０°≦$\theta$≦$\theta$q

Ga（θ）≦２＋15 log（$10^{((Gamax-8.4)/20)}$）〔dBi〕　θq＜θ≦θr

Ga（θ）≦43－４log（$10^{((Gamax-8.4)/20)}$）－20 log（θ）〔dBi〕　θr＜θ≦θs（θs＜θtの場合）又はθr＜θ≦θt（θt≦θsの場合）

Ga（θ）≦３〔dBi〕　θs＜θ≦θt（θs＜θtの場合）

Ga（θ）≦３－0.0075（θ－（97.5－Gamax））^{2}〔dBi〕　θt＜θ≦90°

Ga（θ）≦10－10 log（$10^{((Gamax-8.4)/20)}$）〔dBi〕　90°＜θ≦180°

なお、θは空中線の主輻射方向からの角度〔°〕とする。

$\theta q=21.2/\left(10^{((Gamax-8.4)/20)}\right)\times\sqrt{Gamax-\left(2+15\log\left(10^{((Gamax-8.4)/20)}\right)\right)}$〔°〕

$\theta r=10^{\left(2.12-\log\left(10^{((Gamax-8.4)/20)}\right)\right)}$〔°〕

$\theta s=10^{\left(2.05-0.25\log\left(10^{((Gamax-8.4)/20)}\right)\right)}$〔°〕

$\theta t=97.5-Gamax$〔°〕

イ　Gamaxが40.3〔dBi〕を超え46.3〔dBi〕以下の場合

Ga（θ）≦Gamax－2.0×10^{-3}（$10^{((Gamax-8.4)/20)}\times\theta$）^{2}〔dBi〕　０°≦$\theta$≦$\theta$q

Ga（θ）≦２＋15 log（$10^{((Gamax-8.4)/20)}$）〔dBi〕　θq＜θ≦θr

Ga（θ）≦43－４log（$10^{((Gamax-8.4)/20)}$）－（6.2＋２Gamax／５）log（θ）〔dBi〕　θr＜θ≦θs

Ga（θ）≦15.83－Gamax／３〔dBi〕　θs＜θ≦θt

Ga（θ）≦15.83－Gamax／３－（0.02675－0.0005Gamax）×（θ－177.56＋3.08Gamax）^{2}〔dBi〕　θt＜θ≦θu

Ga（θ）≦10－10 log（$10^{((Gamax-8.4)/20)}$）〔dBi〕　θu＜θ≦180°

なお、θは空中線の主輻射方向からの角度〔°〕とする。

$\theta q=22.5/\left(10^{((Gamax-8.4)/20)}\right)\times\sqrt{Gamax-\left(2+15\log\left(10^{((Gamax-8.4)/20)}\right)\right)}$〔°〕

$\theta r=10^{\left(1.82+Gamax/150-\log\left(10^{((Gamax-8.4)/20)}\right)\right)}$〔°〕

$\theta s=94.55-1.5Gamax$〔°〕

$\theta t=177.56-3.08Gamax$〔°〕

$\theta u=130.8-Gamax$〔°〕

二　設備規則第四十九条の二十五の二第三項の技術的条件は、次のとおりとする。

１　占有周波数帯幅の許容値

次の表に掲げる値とする。この場合において、五〇〇kHz未満の端数が生じたときはこれを五〇〇kHzに繰り上げた値とし、五〇〇kHzを超え一MHz未満の端数が生じたときはこれを一MHzに繰り上げた値とする。

変調方式	占有周波数帯幅の許容値
四値周波数偏位変調又はこれと同等以上の性能を有するものであって、変調指数0.4のもの	次に掲げる式による値 fcl×1.6
四値周波数偏位変調又はこれと同等以上の性能を有するものであって、変調指数0.7のもの	次に掲げる式による値 fcl×2.0
四相位相変調又はこれと同等以上の性能を有するもの及び一六値直交振幅変調又はこれと同等以上の性能を有するもの	次に掲げる式による値 fcl×（１＋α） α：ロールオフ率　（ロールオフ率0.5以下）
直交周波数分割多重方式	次に掲げる式による値 fcl×サブキャリア数×1.1

fcl：クロック周波数（MHz）

２　搬送波の周波数の空中線電力に対する減衰量

中心周波数から一チャネルの帯域幅の五〇％以上一五〇％以下離れた周波数帯域において、任意の一MHzの帯域幅当たりの空中線電力に対する減衰量Asmは、次の式により求められる値以上であること。

Asm＝ａ＋ｂ×（pd－50）＋10 log（BWch）[dBc]

なお、Asmは、１チャネルの帯域幅が20MHz以下の場合は最大59.8＋10 log（BWch／60）[dBc]とし、１チャネルの帯域幅が20MHzを超える場合は最大56［dBc］とする。

pdは離調周波数対１チャネルの帯域幅比［％］、BWchは１チャネルの帯域幅［MHz］とする。ａ及びｂは、次のとおりとする。

ア　１チャネルの帯域幅が20MHz以下の場合

pd＝50％以上100％未満のとき、ａ＝11dBc、ｂ＝0.3

pd＝100％以上250％以下のとき、ａ＝10dBc、ｂ＝0.32

イ　１チャネルの帯域幅が20MHzを超える場合

ａ＝11dBc、ｂ＝0.4